

高薄町長

新年度からは、今まで個々にやってきたものを集約して発信するため、観光協会の事務局を移転し、何が清水町に良いのかを、商工業の方と連携を取りながら考えていく。観光を含めて、商工業を発展させていくことにより、元気なまちにしていきたい。

食品ロスを減らすための取り組み

安田 薫 議員

まだ食べられる食品が捨てられる「食品ロス」が注目されている。

国内での食品廃棄は年間642万トン発生し、世界の食料援助量の2倍にあたるとも言われている。

「食品ロス」は企業収益や家計を圧迫することにも、焼却処理による二酸化炭素排出などで環境を悪化させているとも言

われている。ロスの半分は家庭から出ており、一人ひとりの行動で減らすことができるため、食育を推進する本町における、食べ物を大切にする取り組みについて伺う。

高薄町長

食育に関しては健康を含めて推進しており、この輪をもっと広げて、町内会や農村地区にもしっかり定着させていきたい。子どもたちには、生産する喜びと食の大切さを伝えたいので、今後も更に食育を進めていきたい。

交流人口拡大に向けての一考察(合同納骨塚に關わって)



原 紀夫 議員

本町独自の特色ある合同納骨塚を設置することにより利用者を本町に導き、特産品などを広くPRして活性化に結び付け、

交流人口拡大につながる方策を提案するので町の考えを伺う。

①設置場所は戦没者追悼碑近隣またはステーション近辺で、町を一望できる箇所とする。

②利用者の範囲を限定せず広く公募する。

③他市町は合葬が基本であるが、本町は骨箱で収納して返却可能とする。

④誰の遺骨かがわかるようにプレート等を付け、細心の配慮で管理する。

⑤利用料金は利用しやすい料金設定とする。

⑥他市町と類似しているものではなく、本町独自の知恵を結集したものとす。

高薄町長

①合同納骨塚を新しく設置する考えには至っていない。今ある納骨堂を活用する。

すでに骨箱が2つ納められているが、まだまだスペースに余裕があるので、まずは周辺の環境整備をしていく。

②自治体が利用者を広く公募することにより、宗教学者との関わりがどうなっていくのかが懸念されることであり、広く公募することはもう少し時間をかけて考えたい。

③今ある納骨堂を活用すれば骨箱で収納できる。管理方法を検討して遺骨をお返しすることも可能である。

④誰の遺骨かわからなくなってしまうので、プレート等で表示することは考えている。

⑤今ある納骨堂であれば高い料金設定にはできない。プレート等の取付代金を多少いただくかもしれない。

⑥合同納骨塚を訪れる方々によって町が元気になるのではないかと提案であるが、お墓参りの時期に清水公園や墓地の駐車場の特産品の販売を行うことも可能であるので、当面は今ある納骨堂を使うことで理解いただきたい。

閉会中の委員会活動

総務文教常任委員会

- ・学校現場における教育活動の状況について
- ・他所管に関する事項について

産業厚生常任委員会

- ・農業施策の現状と課題について
- ・交通安全と防犯の取り組みについて
- ・他所管に関する事項について

議会運営委員会

- ・議会の運営とその諸規定について
- ・議長の諮問に関する事項について

陳情の審査

件名	提出者	審査委員会	審査状況
「マイナンバー制度の廃止を含めた抜本的見直しを求める意見書」の提出を求める陳情について	幸福実現党 清水町地区	総務文教 常任委員会	継続審査

議会を傍聴しました！ 町民の声

- ★答弁に具体性が欠けている。議員もさらにつっこんだ議論へ持って行っていただきたい。
- ★お金をかけずにすぐできることがあると思うので、町民を巻き込んだ議論で打開策を見出してほしい。
- ★ネガティブな側面から入るのではなく、成功事例などを基に積極的に取り組んでいただきたい。